

なでしこリーグ所属クラブの現状と展望に関する考察 Study on the Status and Prospects of Nadeshiko League club.

1K09A090

指導教員 主査 原田宗彦 先生

越川 侑美

副査 松岡宏高 先生

【緒言】

女子サッカー日本代表のなでしこジャパンが2011年7月のドイツワールドカップで優勝を果たし世界一になり、注目されるようになった女子サッカーだが、実情ではなでしこリーグの観客数はJリーグと比べるとまだまだ少なく、またなでしこリーグ所属クラブの形態も現在はJリーグ参加のチーム・Jリーグと提携チーム・単独経営のチームとなっており、Jリーグのように統一しておらず、企業スポーツとプロスポーツの合間にあるような印象を受ける。2012年のプレナスなでしこリーグ順位表を見ると、上位チームは練習場や運営ノウハウ、運営費などの面で男子チームと共有できる部分が多いJクラブ傘下のチームが上位5チーム中3チームとなっている。またJリーグ傘下のチーム4チームにおいては日本代表を少なからず1人は輩出しているという現状が明らかになった。このようになでしこリーグ所属クラブのクラブ運営において、Jリーグのように全チームが同じ運営状態となるような統一形態がない状態で、各クラブのレベルの差が出ているという状況が続けばファンにとっての面白みがなくなり、観客数の減少が考えられ、今後のなでしこリーグの発展においてマイナスであり、なでしこリーグの収入においてマイナスになりうる。このことは結果的にみれば日本女子サッカーにとってのマイナスになるであろう。

【目的】

本研究では、①Jリーグクラブが保有する女子チームが本当にチーム活動が行いやすくなっているのか②なでしこリーグ所属クラブのクラブ形態の違いによる環境の差異を検証することを目的とした。そして、この2つを検討していくことで、なでしこリーグ所属クラブの今後の目指すべきクラブ形態を考察し、その実現のためになでしこリーグはリーグ運営者としてどのような施策をすべきかを提言することとする。

【方法】

①各クラブの公式ホームページと「Plenus なでしこ LEAGUE/Plenus チャレンジ LEAGUE オフィシャルガイドブック 2012」を参考とした、資料による調査と

②インタビューによる調査を行った。①は②の前段階として、なでしこリーグ所属クラブの現状をまとめるために行った。インタビューは半構造化インタビューを用い、事前に質問事項を作りそれをもとにインタビューを行い、適宜追加質問を行った。

【結果・考察】

なでしこリーグ所属クラブにおいて、クラブ形態を3類型に分けた場合、Jクラブ傘下のチームは他のチームに比べ、環境面・サッカー面で有利になるといえる。それは環境面では既存のJリーグのクラブハウスを共用することができ、女子クラブだけでは経営が難しい時にも男子クラブが経済的に援助してくれる・練習場所も男子のグラウンドを借りやすいという面である。それに比べ、独立形態のクラブはすべての事柄を自分たちで賄わなければならない、それには高い競技力によるファン・スポンサーの獲得が必要である。よってファン・スポンサーの獲得数によってクラブの状況が変わり、その獲得が難しいクラブにとっては厳しい現状がある。そしてJクラブと提携クラブについては、サッカー面では補助されているものの、それを支える経営基盤がおぼつかなく、まずは経営力の強化が必要だと考察された。このように、クラブ形態の差異により、運営面・練習環境に差が出ることに加え、クラブのチームの経営が危うくなった時に予想される対応にも差があると考えられる。

【考察】

Jリーグ傘下チームの場合、女子クラブは男子クラブの運営の負担になる可能性もあるため、完全に女子クラブがJクラブ傘下になることはせず、提携という形を取り、コーチング・運営のノウハウはJクラブと女子クラブで共有し、その他スポンサーなど実質の運営は女子クラブが単体で行い、破綻しないように運営していくという形を提案する。

またなでしこリーグ側に対しては、リーグ運営者として上位・下位の競技レベルの差をなくすための施策を強化することと、各クラブに対し、足りない人員をリーグの人員で補っていくといった介入の仕方の検討が望まれる。